

第20回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成22年10月29日 18:30~20:00

場所 水島公民館

《市長》

「地域力を活かすまちづくり」ということで、福島県の郡山市で全国の中核市市長会議がありまして、ちょうど帰ってきた所です。全国の中核市の市長が集まりまして年に一回サミットをやっております。各市が直面している課題について話をしたり、財政状況について発表したり、環境の取り組みを発表したり、多くの傍聴の方もいらっしゃいました。今全国で40市の中核市があります。これは人口が30万人以上の都市で、岡山県内では倉敷市だけですが、県によっては複数ある所もあります。どこもやはり去年一昨年からの景気の影響で非常に経済状況が厳しく、法人税とか非常に苦しくなっているという話もありました。一方で環境の分野に力を入れて来ている所、もう一つは子育てのことに力を入れている市が非常に多くなっている印象を受けました。中核市の会議の状況等につきましては、市のホームページを通じて発表したいと思います。

今日のテーマは「地域力を活かすまちづくり」ということで、水島の地域を取り巻く状況を今市で行っている事業、水島サロンとか、水島のリフレッシュ構想のお話とか、昨日議会の方にお話させていただいたばかりだと思いますけども、市が水島国際ホテルの平山社長さんと三菱さんと話した状況についてお話させていただきたいと思います。

この地域でここ1、2年の間で一番大きな課題となっていたのは、水島サロンだと思います。1年半、2年ほど前から県との交渉がいろいろありまして、今年の2月にみなさまからいろいろご意見をいただきまして、県と再度強い交渉を行いまして、市の方に譲っていただくと。それについてはいろんな改修をしてというお話を申し上げました。それから今年の6月だったと思いますけれども、市の施設、市民のみなさんの交流、環境の拠点として使っていきたいと、市の方の案を発表させていただきまして、みなさまからいろいろご意見をいただきました。それを踏まえまして、今ちょうど工事に掛かっている所です。水島サロンのみなさんからの意見をいただきまして今、一番最初の案と少し変更をしまして、市議会の方には少し前に発表させていただいた所です。こちらが今の東棟でこちらが今の西棟です。もともと市の方での計画、バリアフリーの所の石段、段差が非常にある所、このメインの所になかなか上がりにくい等いろいろなお話をいただいております。それで6月に案を発表してからみなさまからいろいろご意見をいただいた中で、市の方で今ももとの案から変更しておりますのが、まず一つには、屋外のトイレを作ってもらいたいということがありました。ここを芝生広場にするということで今行っていますが、ここでいろんな活動をされるにあたって、外にトイレがないので非常に困っているという話がありましたので、この部分に外向きのトイレを設置させていただこうと思っております。それから障がいのある方用に、ここにまた別に一つ駐車場を設けており、そこに停めていただく。もしくは先日水島信用金庫さんからアイミーブ(i-Mi EV)を一台ご寄贈していただきました。環境のことに使ってもらいたいというお話でしたので、それをここに置いていきたいと思っております。

こちらの西棟ですが、環境の学習の拠点として使って、こちらは主に市の施設として使っていきたいと思っております。中核市の会議でも、市の新たに学習の拠点を既存の施設を

使って大きなものをしていくことを発表した所、ぜひできたら視察に来たいという市がかなりたくさんありました。ここに駐車場を置きまして、今エレベーターがこちらの建物の中と、こちらとこちらの建物の中、この建物の東側の一番向こう側にあると思いますけど、外からこの駐車場の方からも行っていたらいいように、かつ入り口の所に入ってもらいやすいように、主に東棟の方を市民の交流の拠点としていきたいと、屋根を付けて車いすの方でも東棟の方になるべく移動していただきやすいように考えております。太陽光発電と太陽集熱の装置、会議室を取ってもらいたいとお話がありましたので、二階にあった会議室を一部東棟の方に移しまして、3つある西棟は、一番向こうは環境の市の業務として使いまして、真ん中が環境学習センターの機能を主にするようにと考えています。一番こちら側の方がふれあいホールのような形でも使っていただけるようにと、なるべく使っていただきやすい市民交流の場にもなれるようにと今計画をしております。階段は一部残しておりますが、エレベーターと車いすですずっと上がっていただける施設も造っている所です。今の所、みなさまに使っていただくものは来年の4月にオープンできるようにやっております。中間報告を受けてちょっと心配なことは、やはり建物の老朽化で、一部漏水といますか水の防水の所を思ったよりしないといけないのと、以前の基礎の部分の建物が一部撤去しないといけないことがあるというので、最初に計画していたのと今難航しているようですが、とにかく4月に間に合うようにという思いでやっております。もし工事の状況で少し遅れることがありましたら、なるべく早めにその段階でお知らせしたいと思っております。これが今の水島サロンの現状です。こちらの方は後一年くらい送ってオープンする予定で今やっております。

お手元に水島リフレッシュ構想の資料を、絵が描いてあるものと水島リフレッシュ構想検討報告書（概要版）をお配りしております。この構想は、水島地区のこれまでのまちづくりについて今後10年間にどのような方向で水島のまちづくりをしていかなければならないか検討をしたのがこの資料です。

これまで水島地区につきまして、今後のまちの姿をどうしていくべきかという構想が作られていなかったわけです。今後の水島の地域、特に水島地域の拠点となる水島支所を中心とする商店街、公共の施設がある所を含めてほしい143ヘクタールですけども、これから10年の間の目指すまちの姿として、まず市の関係部署で検討してきたものがこれです。水島地区につきましては、平成19年の時にまちづくりに関して市民のみなさんのご意見をお伺いする会を市として持たせていただいております。その中で、まちづくり交付金のようなものを使っているいろいろな整備ができる状況なのか、難しいのか市民のみなさんの意見を伺ったり、アンケートをお願いしたわけですが、国土交通省のまちづくり交付金を使って、何か大きい建物を建てるのは、その状況の中で市民のみなさんたちの意見の集約とはならなかったのが平成19年当時です。それに基づきまして、水島の地域について、そのまま何もしなくていいということではないと、私が市長に就任させていただいてから再度水島の支所を中心とした地域のまちづくりについて検討すべきではないかと、まず市の内部の関係部局の職員みんなで検討して、今の段階で取りまとめたのがこの水島リフレッシュ構想です。もちろんここに書いてあるこれだけで全部決まっているわけではありません。これは今の段階の案で市議会の方にもご提示をいたしまして、だいたい23年度に本計画として取りまとめたいと思っております。そこから国の社会資本の整備の交付金を使いながら順次まちの整備を行っていききたいと思っているのがこの計画です。今の案

で一つ大きなものは、昭和26年にできた水島の中央公園です。もう60年近く経っておりまして当時は先進の公園でしたが、今は非常に使いにくいという声をよくいただくようになっております。今市が持っているもので整備をし直す必要が喫緊にあると思っているのは、水島の中央公園、商店街の歩道のカラー舗装と書いてありますが、商店街の舗装だけすれば活性化になるとはもちろん思っておりません。市の方でまず何ができるか考えているのですが、商店街の中でのハード整備です。水島サロンの所の文化センターの予定地の活用についても、今後検討していく必要があると思っています。多くみなさんに利用をいただいております水島中央公園のプール等は、老朽化がやはり進んでおります。その部分の改築等を始めとしてこの143ヘクタールの中での整備を進めたいと思っています。

水島公民館、水島図書館、児童館は、建物の造られた年数がバラバラであるのが非常に整備しにくい現状の一つになっています。水島の公民館は昭和49年にできて、古くなってきたということで平成10、11年にかなり大規模の改修をしておりますので、水島公民館、児童館、図書館等をどこかにいっぺんに大きなものを造って改築するのも今の時点では、水島の公民館を改修したばかりですので難しいと思っております。公共施設の今後のやり替えは、まだ現状の案の検討では中途の段階になっております。建物の耐用年数とできた年数等も含めて、引続き検討が必要だと考えている現状です。

リフレッシュ構想を発表したのが8月末、9月の初めくらいです。そしたら今度は、水島国際ホテルが閉館する話を9月の初めに伺いまして市議会がありまして、10月の中旬の約3週間前に三菱自工の平山社長さんの方に私が伺いまして、廃止が決まった経緯について話を聞いてまいりました。水島国際ホテルは昭和41年にオープンをしまして、非常に古くなっているという話をまずされました。耐震の改修等を含めて、やり替えをするだけで最低でも6億円くらいの金額がかかるという話でした。ホテル、宴会場として機能をしていくために、やり替えを必ずしなければならない。そのやり替えに約30億円くらいかかるというお話をされました。その時点でみなさまから宴会とか寄り集まってご飯を食べるといのがなくなるので困ると話を伺っていましたので、その部分はどうか聞きましたら、それだけでも約5億円かかるということでした。その時に今一度三菱の本社の方に話をもう一回持って帰ってもらって、市の方でこの改築について何か手伝えることがあるだろうか、この意味にはその改築等について補助金を出せないか、仕組みについては細かく検討はできていませんでしたが、そういうつもりは市としても三菱の方で検討されていく中で一緒に話し合っていけないかと話をさせていただきました。再度本社の方と協議をして下さったわけですが、三菱の本社から宴会場、ホテルの部分も含めて今後の採算性の面が見込めないことが、会社として一番厳しい面だと話をされました。ホテルだけじゃなくて宴会場だけでもどうかと聞いたんですが、全く元が取れない状況で、毎年赤字になっているということで、本社として閉めざるを得ないと今週の月曜日に返事をいただいた状況でした。本当に残念ですが、市としてその時点で再度お願いをできるのは、このまま閉まってずっと置いておくのでは水島の活性化に繋がらないので、会社として閉められるのであれば次の展開が少しでも早く来るように土地の売買なり他社の方に貸される等、早くやってもらいたいと強くお話をした所です。何とか次の展開を今色んな方面に働きかけをしている所だといつ先日返事をいただいたのが今の状況です。

倉敷の駅の所もそうですが、倉敷駅の北の方でイトーヨーカ堂の新しい施設がオープンしますが、倉敷駅のホテル倉敷が今年の年末で閉まる状況です。中核市会議でも他の市長

とも話をしたんですが、どこの市でも一ついいことがあってほしい2つ3つくらい非常に厳しい状況に今どこもなっていると話をされましたが、その中でみんなで頑張っていかなければいけないと昨日今日と話をした状況でした。大きな水島地区の課題は、今のお話を申し上げた3つだと思っております。

10月1日に、栄駅の前に水島の障がい者支援センター「はばたき」がオープンをしました。これは障がいのある方に対するいろいろな支援、相談する施設ですが、もう一つ大きな目的は、地域のみなさんとの交流の拠点として使っていただきたい場所ということです。ここに関係のある団体の方しか使えない場所ではありません。地域のみなさんたち、交流を含めてぜひ使っていただきたいと思っていますが、この施設です。倉敷市としては、水島の拠点の地域の中で地元の商店街のみなさん、おかみさん会、今日もたくさんお越しいただいています。地元のことを元気にする、未来を考えていく会のみなさんを始め、水島のことを何とか良くしていきたいと思っておられるみなさんと一緒に頑張るまちづくりを進めていきたいと思っています。このリフレッシュ構想につきましても、水島のその他の大きな課題、小さな課題あると思いますが、今日時間の許す限りの中でみなさんからいろいろな話を聞かせていただきたいと思っております。

《参加者Aさん》

7月29日福田公民館での市民ふれあいトークに私も参加させて頂きました。その時に市長に水島の商店街が今シャッター通りになっているのを何とかできないかと話をさせて頂きました。私の個人的な考え方ですが、幸いなことに倉敷市内には多くの大学があります。大学の学生さんたちに水島のシャッター通りの商店街を提供して何とか活性化できないかと話をさせて頂いたつもりです。市長さんは「それはいいお考えですね、何とか検討を。」とおっしゃったと思うんです。その後今日でちょうど3ヶ月経っているので、その後どういう動きになっているのかをお聞きしたい。

もう一点は、先ほどのリフレッシュ構想の中にもありました赤く塗った所、常磐町の商店街に関しては、栄町は今歩道がきちっと付いています。常磐町は付いていないことから、ここをカラー舗装して安全をとお考えになられているということですね。

もう一点は、水島は特にリフレッシュ関係のことを非常に考えていただいているんですけど、この考え方は本庁の方でまとめられていることでしょうか。支所の方は水島のリフレッシュ構想のことに関してはノータッチという状況なのかどうか。もし本庁だけで考えておられるのであれば、今のシャッター通りの件も含めて水島のことは水島支所に担当課を置いていただいております。われわれ水島に住んでいる者は、本庁まで行くよりも支所に行く方が行きやすいこともあると思うので、ご検討いただきたいと思います。

《市長》

学生さんのことですが、サンピア倉敷、今度の名前がヘルスピアになりますけど、倉敷芸術科学大学、加計学園が購入をされまして新しく11月3日にオープンになる予定で、オープンの記念式典があると聞いています。地域に開かれた大学にしていくということで、随分いろいろ検討して下さっています。倉敷芸術科学大学をやっておられます加計学園の加計理事長先生と、「先日こういうお話が市民のみなさんの中であって、ぜひやっていき

たいと思っている」と詳しく話をしました。理事長先生としては「ぜひやっていこう」と言って下さっております。ただ、具体的にはこれからで、芸術科学大学の専門学校の学生さんたちと水島の地域のおかみさん会と一緒に事業を行っていただいているとも伺っております、芸術科学大学としては水島の地域の発展に学生さんたちを含めて協力していると思っていると話した所までが進捗です。

常盤町の通りは、おっしゃられるとおりでございまして、整備が特に必要だと思われる所、まちの中心部ということ等も含めまして、特にここに赤で記載しています。

3つ目の誰が作ったかということですが、本庁だけでなく、水島の支所の者も一緒に作っております。水島の現状等も伺いながら作っている所ですが、まだ庁内の検討会でしたので、これからいろいろなお意見をいただけたらと思っています。

《参加者Aさん》

専門の部署が支所の中にできると考えたらいいでしょうか。

《市長》

専門の部署を作る時期がまだ決まっていないんですが、今はまず本庁全体で取り組まなければいけない問題だと思っています。支所だけで取り組んでもらっていい問題ではなく、倉敷市全体の発展の中で、水島の地域の核となる所を再度整備しないといけないということで、まず本庁が先頭になって、支所の職員さんも入って作っていくのが必要だと思ったので、まず本庁の方で全体の取りまとめをしております。だんだん具体になっていく時にはもっと水島の支所の方に重きを置いた執行体制にしていくと思っていますけど、まだその段階には来てないかと思っています。

《参加者Bさん》

水島の未来を考える会の役員をしております。

私もリフレッシュ構想を含めて、これから掘り下げて水島のまちづくりをどうするかは、まちづくりの担当の方をぜひ早急に水島支所に置いていただいて、地域のわれわれと一緒に頑張ってまちづくりをどうするか、その推進役になるような人を派遣していただきたい。若くて元気の良い人で、窓際族じゃなくて、どんどん進む人。それでわれわれと一緒に頑張ってどうするかという人をできるだけ早く派遣して下さい。

もう一つ、先日総社からデマンドタクシー構想の発表がありました。水島地区は人口9万人で福田、連島、水島の3地区がありまして、東西の横の連絡、交通機関がありません。したがってなかなか人の交流ができない。車を運転する人は出入りが出来ますが、これから高齢化社会になった場合に運転できない高齢者も増える。そういう人々が水島のまちに来たり、水島から連島・福田に行くような交流の、要するに交通機関がないと水島のリフレッシュ構想、連島・福田の人が聞いても「あれはよそ事だ」という感じになるんです。だから「あそこに行ってみよう」「いいまちになった」という雰囲気作りは、やはり人の交流が一番大事じゃないかと。倉敷市においても、高い所の団地では一部デマンドタクシーを行っていますけれども、停留所を設けての運行じゃなくて、玄関から目的地まで離発着できるようなデマンド方式が望ましい。というのは、スケールが大きいだけに停留所まで出るのは大変ですから、玄関まで迎えに来る予約制のデマンドタクシーの導入を是非して

いただきたいと思います。これには地域のわれわれ、タクシー会社、行政の三者一体となり、どうすればいいかと問題点を解決していかなければ経費がかかりますから、一朝一夕にはできないと思いますけれども、取り組みの推進役としてやはり水島支所に元気のいい人を導入していただいて、いろんな問題を解決しながら水島の病院へ来たり、連島や福田へ行ったり、買い物も行こうと。こういう足の活用をやらないことには9万人の交流なり水島のまちづくりが絵に書いた餅になるという感じがしますので、お考えをお聞きしたいと思います。

《市長》

このリフレッシュ構想の、水島の9万人の要となる部分ですので、本庁、もちろん支所もですが、担当の中でよく分かっている人にまず案を作ってもらったつもりです。それぞれみんな非常に優秀な職員さんにやっていただいております。それから今後地域でのお話を伺ったり、具体になっていく時には若くて元気のいい人というお話でしたので、なるべくご希望に添えるような形で頑張りたいと思っております。

デマンドタクシーと言いますか、総社のようなタクシーができないのかということで、うちの方も総社のタクシーについてよく話を聞いてみたいと思っている所です。市によって取り組み方が違うのも一つあるのかも知れないのですが、倉敷市では今、生坂とか児島、いくつかの地域でデマンドタクシーが成功してきていると思っているんですけど、どう水島の地域に導入できるかというお話だと思います。デマンドタクシーについては、基本的には地域のみなさんのご了解の下に運行することになっておりますので、市が走らせるバスなり市のタクシーではないんです。ですので、地域のみなさんのご協力がなくてはできないと思っております。市が交通局を持っていた昔とは違う状況になっています。ただ、特に東西の交流をする術がなかなかないのは私も感じております。これは水島の地区だけではなくて、やはり市内の大きないくつかの地区でもバスが減便になってしまって足がないというお話をよく伺いますので、市の交通政策全体として取り組まなければならない大きな課題だと思っておりますが、特に東西の連島・福田の間でのというお話についてはしっかり頭に入れて検討していきたいと思っておりました。

《参加者Bさん》

水島支所に常駐していただく前に、とりあえず「本庁の誰誰君が水島の担当だからその人に相談して」と示して下さい。倉敷市の交通政策として、まず水島地区を模範モデルに第一にやるようお願い致します。

《市長》

今現在は、小野課長がこの陣頭に立って、まちづくりでやってくれておりますので、何か分からなければ小野課長に言っていただければと思います。

《参加者Cさん》

水島中心地のリフレッシュ構想でいろいろご説明を受けまして、やっていただければ結構かと思いますが、少しやっていることが小さすぎる気がします。水島は3つの地域から成っている。もっと拡大した中で、どう見ているかをお尋ねしたいです。水島の亀島に水

島地下工場があります。これは戦争の文化遺跡です。これを文化遺跡として、水島はこの亀島の地下工場との繋がりは切って切れない非常に大切なものです。全国的にもこの地下壕を今、危険だから埋めていこうという考え方と、戦跡遺跡として残して平和の灯火としてやっていこうという考えがあります。戦争について、人から人へ語りで継いできたものが、語る人がいなくなって来るわけです。そうすると人から物ということで、物を残した中で保存して平和を守っていく、言い伝えをしていくことを大事にしていったらいいかと思います。この亀島の地下壕について、語る会がありますが、市長さん合わせて行政の力を込めて、あそこに平和記念館を建てて、地下壕が開放できて、こんな所でこういう難儀をして水島、日本の平和のために戦ってきたという思いをこれからずっと続けていくために開放をぜひ進めていただきたいと思います。

《市長》

亀島の地下工場のご質問だと思います。私も前の所までは行ったことがあります。一時期子どもさんが中に入って遊んでいたことがあって、国の方からも中に入って危険だったらいけないと、全国的にいろんな調査が来まして閉めなければいけないということで入り口を今閉めているのが現状です。戦争の遺跡としては非常に大切なものだとして認識しております。一方でこの物について、手を入れる、埋めること等も含めて市の方で今調べている限りでは、個人の所有なり一部には工場の跡ということで、当時の国の所有もあるのか非常に権利関係が非常に複雑になっていることと、一方で今非常に危険だということで閉めざるを得ない状況です。ただ、一つには戦争の遺跡ということで、市としましても倉敷市にはこのような工場があって、戦争の遺跡としての価値があるということのパンフレットを作らせていただいた状況です。まだそこまでしか進んでいないんですが、一番の大きな課題としては、権利関係と危険な面という所が大きいと思っております。戦争のことについては福田の公園にも平和の鐘を設置をしまして、水島の空襲、原爆、終戦記念日に鐘を鳴らしているわけですが、今後ともわれわれの語り継いで行かないといけない大きなものだと思っております。

《参加者Dさん》

鶴新田はレンコン田がいっぱいでして、40年ほど前に来た当初はほとんどレンコンとい草だけでした。もともとあったレンコン田は3分の1くらいが荒地になって、一面が5反とか8反あるのが雑草地になっています。なぜかと言いますと、レンコンを作っている人たちがお年寄りばかりなんです。子供さんたち、若い人たちは立派な田んぼ、財産があるにも関わらず、どこかに出て行って仕事をしてということで、これは地域活性化にならない。単にレンコンを洗って大阪、岡山へとどんどんトラック便で送っているだけなんです。一箱が3、4千円くらいしかしないそうです。3、4キロのかんりの重量が入っています。工夫がなさ過ぎると常日頃から思います。熊本県の八代にある辛子レンコンにして売るとか博多の明太とかいろいろありますけれども、行政と農協と生産者とで、レンコンを例えばお好み焼きみたいなとか、うどんに入れるとかいろいろやってみると美味しいんです。いろいろ工夫しましたら付加価値が2倍も3倍も5倍も上がって、お百姓さんの収入が増えれば若い人たちも定着しますし、外部からも働く人が来ると思います。荒地では立派な田んぼを置いておくのはもったいないし、若い人たちが外へ行くのもやむを得

ないと思いますので、地産地消という観点から、ぜひご検討いただければと思います。

先ほどの亀島のこと、人間でも動物でも何でも高い所は物凄く好むんです。あそこをもう少し工夫してもらって、早朝ラジオ体操できるようにとか、朝集える場にしてもらったり。あまりに殺風景で、たまに女性の方が上がっていたら誰も居なくて薄気味悪いんです。いろんな所に行くと足高山でやったり、鶴形山でやったり、ラジオ体操しています。水島と連島の人たちが拠点として体操をみんなでやったり、ゲートボールのミニ版とかでも出来るような、人に来てもらったりするともっと活性化して地域の交流に繋がると思います。亀島山の提案と合わせてご検討いただければと思います。

《市長》

この前、福田の生姜が非常に素晴らしいというのを知ったんです。スーパーで買っていると高知の生姜とよく書いてあって、倉敷市でも高知の生姜が売っているのかと思っていましたが、J A 倉敷かさやのみなさんが生姜を市役所の方に持って来て下さって、そのPRだったんですけど、福田の生姜は高知の生姜よりもよっぽど私は立派だと思います。大きさも大きいですし、勢いもいいと思います。同じように、連島のレンコンも牛蒡も本当に品質がすごい良いと思います。

課題は、いかに付加価値を付けるかが非常に大切だと思います。食の開発と言うか、付加価値の開発。例えば津山のホルモンうどん、先日児島のたこ塩焼きそばが発売になりましたけど、本当に美味しいと思います。あれはこれからB級グルメでもかなり上の方に行くと思うんです。そういうものを何か、それこそ食の面で芸科大に食と器の専門の学校もありまして、一緒に活動して下さっているおかみさん会もいらっしゃるの、後で参考にご意見をお伺いできればと思います。倉敷芸術科学大学の特に水島の地域においては、学生さんたちや学校との連携でのいろんな事業の展開をしていくのが非常にいいと思っています。それを加計先生にお話した所だったんです。加計先生はあまりレンコンや牛蒡のことはご存じなくて、それをもっと繋ぎ合わせていけばいいなと思っております。

亀島山については、私は二、三回行ったことがあるんですけど、私が行った時は綺麗なように思ったんですけど、最近行っていないので、薄暗いんですか。

《参加者Dさん》

特に南の工場側の方は樹木が高くて、遠方から来られた人に水島の工業地帯を案内しても、ちょうどJ F Eとか三菱さんの方が樹木で隠れてしまって見えないんです。残念ながら眺望を、樹木を切れとは言いませんが、少し覗けるようにして、みなさんが集まって来るような雰囲気にしてはどうかと思いますけど。よく朝、昼と散歩に行きますけども、ごく限られた人が来ているだけです。

《参加者Cさん》

亀島の上が上がってみると、水島の展望が一番よく分かるんです。というのは高梁川が東高梁川と西高梁川、今現在の高梁川が西高梁川です。東高梁川は、水江から産業道路というか、今の商店街の所、フェリーの出ていた所へ河口があったのがそこへ上がった分かりますし、水島を案内するのはあの上へ上がってよそから来た人に「これが水島のまちでこれが商店街でここが三菱で川鉄で」と言ったら水島のまちが分かって、特に高梁川の

流れがあそこで分かれて東と西に昔あったという説明ができますから、散歩コースになって、非常にいい山です。

さっき市長が地権者の問題と言われましたが、山へ花の公園ができていまして、地権者が了解した中で花の公園ができています。今、地下壕について、上ができて下ができないことはないでしょう。地権者の問題は、上の地権者と下の地権者が違うわけではないです。そこをもうちょっと具体的に研究を進めていただきまして、ぜひ平和記念館を計画して、中へとりあえず入ってください。素晴らしい偉大な天井の高さや、トンネルの数などにびっくりしますから。

《市長》

亀島山には案内板はないんですか。

《参加者》

樹木で隠れている。

《市長》

木は切りにくいんですけど。眺望が見えないのも困りますね。亀島山の現状についてよく公園と相談をしたいと思います。

《参加者Eさん》

亀島山を語り継ぐ会に属しております。今、市長さんが言われたので「危険で入れない」というのはちょっと間違っています。誰でも子どもたちが勝手に入ったら危ないので、もちろん閉めて鍵が掛かっていますが、亀島山地下工場を語り継ぐ会にはたくさん案内の依頼が来まして、全国的に修学旅行でも来たいとか、京都や和歌山からとか、年間非常にたくさんの方が来られています。福田の地域の方も親子三代で見学に入られていますし、亀島山地下工場を語り継ぐ会では危険な所とか厳選して見学コースを決めてやっております。ボランティアでずっとやっております、非常にたくさんの方が来て下さっています。今、全国的にブームがあるようで、大学生の方も映画を作ると言って、地権者の方に鍵を借りて入っておられます。というのが今の現状で、やはり私たちとしては沖縄の南風原(はいばる)のように、きちっと危険でないように壕全体をするのは、非常に広範囲なのでできません。やはりここはやってほしいと、ここまでは入れるとか、案内板を作ってくださいとか、よそでは観光資源として使っております。倉敷市が総務課の方で非常にいいマップを作っているんですが、本当に水島はいろんな戦争遺跡がありまして、みなさんに誇れるものがあると思うので、マップだけでなくパンフレットにしてもっと観光課や駅に置くとか、これから整備を進めていただきたいと思います。

もう一つは、私は仕事で亀島山に上がらせてもらっています。あそこにトイレがありまして、市から委託を受けて清掃させていただいています。本当に眺めがいいので、もっと多くの方に活用していただけたらと思っています。

もう一つ、リフレッシュ構想の中で、歩道の整備とかいろいろあるんですが、私も平成19年のワークショップにも参加させていただいて、その中で水島は高齢者に優しいまちにするとかいろんな案の中で多目的トイレをもっと増やして欲しいというのがありました。

今回リフレッシュ構想の中にトイレのことが一言も出てきていないですが、これから障がい者、高齢者どんどん増えてきますけど、トイレが粗末とといいますか、洋式トイレ、車いすで行けるトイレがありませんので、メインの所には作っていただきたいです。今、その清掃管理もさせていただいていますが、非常に回数が少ないがために、いつも汚れていると。月一回とかではとてもみなさんが綺麗で満足できるものではないので、その辺を作っていただくと同時に清掃がきちんと行くだけの後々のことも考えて予算化していただきたいと思います。

《市長》

私が今のお話を伺って思ったのは、確か工場の敷地の中だかに航空機製作所の滑走路の跡がありますよね、三菱の。今は使われていなくて、戦跡のようにはなってないですね。

《参加者Eさん》

語り継ぐ会では地域の戦跡の見学会とか、いろんな所を毎年行っております。11月23日は玉島砲台にボランティアの清掃を兼ねて行くんですけど、その滑走路跡を去年、私たちも見させて頂きました。また爆撃の後の弾のあるお家とか、まだまだ水島にはたくさんありますので、その辺を分かるように、案内板は順次立てていただいているようですが、水島にカイズカイクキがずっとあるんですけど、当時を偲ぶものは今どんどん壊されていますので、やはり価値のあるものは残していただきたいと思います。

《市長》

水島中央公園の中にありますトイレを今、一箇所多目的トイレにしたいと思っています。多目的ですので、車いすでも入れるようになるはずですけど、一箇所だけではなくて、今後も見直しをしっかりとしていきたいと思っています。

《参加者Fさん》

リフレッシュ構想を見せていただいて、この写真に出ているだけじゃなくて、これからいろんな展開をしていくんですね。具体的に19年みたいにみんなで集まって話をしたりしていられるのかどうかをお聞きしたいです。

その中にサロンもホールの方は無くなったり、国際ホテルも閉まるんでしたら、「水島国際ホテル」という名前だけでも、私たちは水島にも国際ホテルがあるという思いがあったんです。それを今のリフレッシュ構想の中に必ず入れていただけないでしょうか。そういうものが無くなるのは大きいことだと思いましたので、お願いします。

もう一つ19年にみんなでいろんなことを考えたら、補助金の目的に合致しないということで、何にも無くなったんです。あれは一年間かけてなんだったのかと、すごく残念な思いをしました。リフレッシュ構想もこれからみんなで作ると言われたんですけど、さっきみなさんも言われていたのは、担当者の方が変わることです。一年で一生懸命いろいろ説明してやっと分かっていたいただいても、水島のことをお話できる方が一年か二年で部署が変わられて、また新しい方に説明をする。19年の時の方はみなさん居ませんし、どうしたらいいでしょう。さっき「支所に置いてください」と言われるのは、多分そのためじゃないかと思うんです。そうしないと私たちはせっかく考えていろんな思いがあっても市の

方の窓口の方が居なくなったり、新しい方もまた勉強して始めるとなると半年や一年かかります。もっとスムーズに計画を立てて計画がきちっといくシステムはできないでしょうか。

《市長》

今後の展開は、今日概要をお話したんですけど、予定としては11月に地域のみなさんたちに説明をと思っているんですけど、例えば、「未来を考える会のみなさんたちに今日はしましよ」とか、「元気にする会にしましよ」とか、「おかみさん会にしましよ」とか「NPOのみなさんにしましよ」とかにするのか、それとも何回かやりまして、「そこに都合がつく方は参加してください」とか。どっちの方がいいかと思っているんですけど、何回かよくご説明をする、ご意見を伺うというのをこれからまずしていこうと思っています。19年の時にそれはそれとして検討したということで、尊重しないといけないと思っているんですけど、19年で検討してその前の仕組みでは今の所はすることがないとなって、止まっていたのが問題だったと思うんです。私が市長になった時に、水島についてはここまで検討して今の所何にもしないことになってそのまま止まっていたので、非常にまずいと思っていたんです。ですので、それを踏まえて何が出来るのかを具体的に市の中でまずは検討しています。もちろんこれだけじゃないと思いますので、今後話を伺ってから進めたいと思っています。まず水島の地域についてこういうことを着実にやっていこうというのを出した第一弾がこれです。ここに書いてあることはもちろん、ご意見を伺って要らないのがあればしませんが、必ずやっていきたいと思っていますし、この後のことについてももっとやっていこうと思っています。

担当者のことですけど、人事異動等で人が代わるんですけど、もう一人担当がちゃんといて必ず複数で話をしておけば、どちらかの人が人事異動になっても分かる人がちゃんといないといけないと思いました。

今市が持っている施設で食べ物の提供をする宴会場は基本的には市がやる仕事ではないので、今後も国際ホテルの宴会場の機能を市が公共の施設として入れて何かやるのはなかなか難しいかと思っています。ただ一つ思っているのは、以前は宴会場として使っておりました。今回ヘルスピア倉敷として加計学園の一つとして生まれ変わるんですけど、それを地域の方にも開放していただいて、宴会の時に使ってもらえるようにできないかと思って加計先生に強く言ってみようかとは思っているんですけど、市が国際ホテルの代替をとるのはなかなか難しいと思っています。

《参加者Gさん》

水島財団のGと申します。最初にサロンの環境学習施設ということで、私どもも環境再生財団ということで取り組みをしていることもありまして、環境についても多少なりともお手伝いが出来ると思います。いろんな団体が環境に取り組んでおられると思いますが、そういう知恵なども使ってぜひ市民のみなさんの使いやすい施設にしていきたいと思っています。その時に合わせて水島と言えば公害の歴史もありますので、そういった所も踏まえた環境問題の取り組みということで情報発信の施設にしていきたいと思っています。

もう一点はリフレッシュ構想の中で水島のちょうど真ん中を流れている八間川に触れられていないことがあります。噴水を親水空間にというのもいいと思うんですけど、それと

中央公園と八間川を一体に繋げて、この地域全体としてリフレッシュというか、八間川親水空間と言っても今は直接水に触れる所は一箇所しかありません。大根洗い場以外は触れられないので、市民のみなさんが水に親しめる空間としてぜひ整備をしていただければと思います。

《市長》

水島サロンの名前を今度変えないといけないんですが、環境の学習については具体には来年の4月よりまだ一年先になる新しい取り組みですので、その間にいろいろお話を専門の方たちからも伺って分かりやすい施設にできるようにと思っております。

八間川については以前からお話を伺っています。一方で八間川の所にもっと水辺の空間を作るとなると、車線を一つ潰さないといけないのではとも伺っております。そうすると水島の企業のみなさんが交通、輸送に支障があるので非常に困るという話で八間川の整備、車線を一つ潰すことは今の所話が進んでいないと伺っていますが、水島の中央公園の緑地と水島の八間川を現状よりも少しでもいいものにできればと思いますので、そういう観点から見直しをしたいと思います。ただ、もう一車線全部緑にできるかというと、現実はなかなか難しいと今の時点では思っています。

《参加者Hさん》

元気にする会のHです。今年もイルミネーションクリスマスツリーを昨年より立派なものにしようと12月19日にやる予定にしています。ぜひおいでいただきたいと思います。

市長さんに申し上げてどうかとも思いますし、市議員の方も2人いらっしゃるんですけど、「地域を活かすまちづくり」というと、まず拠点が要るんです。今までにもいろんな事業をやる時に、毎月一回元気にする会は2時間ばかり会議をやっております。やはり企業の方、地域の方にご支援・ご協力いただくとなれば商工会議所が水島だけないんです。どういう方法でしたらいいかはわれわれも分からないですけど、特に商工会議所を、駄目なら商工会でもいいです。茶屋町にも庄にもあるし、小さくても構わないので。ご支援・ご協力を願うのに、企業を回らなければいけないし、特に商工会議所を作って欲しいという意見が出ます。

リフレッシュの中で思い付いたんですけど、商店街、カラー舗装だけではなく、大きな木を街中へずっと植えるのは散策するのに非常にいい気がしたので申し上げました。

《市長》

水島を元気にする会のみなさんに於かれましては、昨年も水島の中央公園でのクリスマスツリーは初めてのことで、ランプが付いた時の明るい気持ちは子どもさんたちも非常に喜ばれておりましたし、大きな活性化の一つになると思います。ぜひ何とかお伺いしたいと思います。

商工会議所は、市がつくるわけではないんですが、今、全国的な議論としては、倉敷市は倉敷と児島と玉島と3つあって非常に多いと言われております。何とか統合にならないのかと中央の方ではよく議論になっていると聞きますので、今から水島商工会議所を申請しても認めてもらえない気がしますけれども、水島には大きな企業を始めとしてあるのに、水島としての活動の核がないという・・・

《参加者Hさん》

所長がよく変わるのもあると思います。

《市長》

企業の所長さんとかですね。水島の地域興しは水島の地域のみなさん一番強く考えて下さっていると思うので、もっと結集できる方向がないかと思いました。なかなか商工会議所は難しいと思いますが、もっと活性化できないか自分なりに心に留めて検討したいと思います。

《参加者Iさん》

市長さんのお話の中に文化センターの土地の活用がありました。昨年末から私どももサロンの存続をお願いして、いっぺんに「よしやろう」という格好になって、さすが伊東市長だとみんな拍手していたんです。それが、われわれはみんなで使うために残してもらおうとお願いをしたのに、使う段になって半分行政が使う、お前らは半分でいいだろうとなってしまう。環境問題は私も環境に関係していて、大事だしどんどんしてもらわないといけない状況の中で環境に反対するわけにはいきませんから、いいだろうという話にはなったんですが、一般の住民の方はそこまでの理解はまだない。「わしらが使おうと言っていたのを市が使う？喜んだのはぬか喜びだったのか」という話が多いです。土地もあるし、文化センターの予定地の中に、相当な事務所を、会合を持てるものを騙さずに造って欲しいとみんなが言うので、お願いをしておきます。

《市長》

水島サロンについての経緯は、みなさんが一番ご存知でいらっしゃると思います。水島サロンは、残す残さない以前に市の財産として受け取ってもやっていけないんじゃないかということが一番根底にありました。でするので、最初は市としては難しいのではないかとみなさんにずっと現状のお話をしていたと思います。何とかとりあえず持参金は出そうと県の方からお金をもらったんですけど、当然、何年か分しかないわけです。倉敷市が今、半分に環境の学習の拠点とする、環境監視センターをここに持ってきた私の気持ちの一つには少なくとも何十年かはこの建物の所は市が関与して、市が使うということによって残せるということです。環境監視センターが別の所で建物を建替える選択肢もあったかも知れませんが、ここだからこそ公共も入って環境のいい拠点になると思います。ここにぜひ持ってきたいと思ったのが一つの大きな理由です。

文化センターの予定地の使い方は、いろんなご意見をこれからいただきたいと思います。市議会の議員の先生方とも、文化センターの予定地の使い方としては今の所はこのままにすることになっておりますので、実際の所まだ決まっております。みなさんからのいろんなご意見をいただいて、市議会とよく相談をして決めていくことになると思っております。

《市長》

今日はリフレッシュ構想につきましてもいろいろご意見をいただき、サロンにつきましても進捗状況をご説明をさせていただきました。

また今度、11月にご意見をいろいろいただく機会を設けたいと思っております。その時私がというのは難しいかと思いますが、ぜひしっかり優秀な担当者の人を来てもらうようにしますので、忌憚ないご意見をいただきたいと思います。また優秀な小河原支所長がおられますので、何でも相談をしていただいてよろしくお願ひしたいと思ひます。今日はどうも遅くまでありがとうございました。